

小学校の外国語活動に関する現状調査

《小学校 対象》

調査結果報告

平成 23 年 3 月
財団法人 日本英語検定協会
英語教育研究センター

■ 調査実施概要

■ 質問項目

- 問 1. 外国語活動の取り組みについて
- 問 2. 外国語(または英語)活動の年間実施時間数について
- 問 3. 4年生以下の外国語活動(国際理解活動など)について
- 問 4. 外国語活動を担当している方(関わっている方)について
- 問 5. 「英語ノート」について
- 問 6. 外国語活動に関する研修参加について
- 問 7-1. 今年度を実施される教員研修の教材について
- 問 7-2. 今年度を実施される教員研修を指導する方について
- 問 7-3. 特に必要と思う研修内容について
- 問 8. 教員のパソコンやインターネットの利用について
- 問 9. 児童のパソコンやインターネットの利用について
- 問 10-1. 電子黒板の利用について
- 問 10-2. 電子黒板で利用する教材(ソフト)について
- 問 11. 外国語活動における児童への評価について
- 問 12. 外国語活動に対する保護者の反応について
- 問 13. 年間 35 時間の外国語活動実施のための環境について
- 問 14. 外国語活動において問題や課題であると感じていることについて
- 問 15. 5・6年生での年間 35 時間の外国語活動導入について
- 問 16. 外国語活動導入による影響について(自由記述)

調査実施概要

1. 調査テーマ

国公立小学校における外国語活動に関する現状調査

2. 調査対象

全国の小学校(国公立)

3. 調査目的

平成 23 年度より、小学校高学年に外国語活動が導入されるが、学校現場においてカリキュラムの編成、指導方法、教材の選択などについて、どのような問題を抱えているのか、現状を明らかにする。

4. 調査期間

平成 22 年 9 月から平成 22 年 10 月

5. 調査方法

送付、回収ともに郵送によるアンケート方式

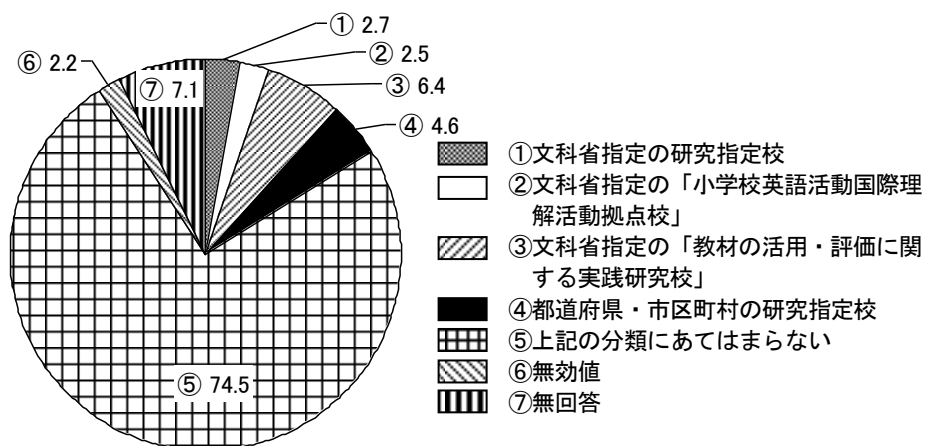
6. 送付数・回収結果

調査対象	送付数	回収数	回収率
国・公立小学校	5,000 件	1,530 件	30.6%

問 1 貴校のこれまでの外国語活動の取り組みについて、あてはまるもの 1 つを選んでください。

本調査のサンプル数 1530 校のうち、もっとも多かったのは「いずれの区分にもあてはまらない」で 1140 校 (74.5%) であった。次いで「平成 21 年度における文部科学省指定の『教材の活用・評価に関する実践研究校』」98 校 (6.4%)、「都道府県・市区町村の研究指定校(研究内容:英語教育/小・中連携/その他)」70 校 (4.6%)、「文部科学省指定の研究指定校(研究内容:英語教育/小・中連携/その他)」41 校 (2.7%)、「平成 19 年・20 年度における文部科学省指定の『小学校英語活動等国際理解活動拠点校』」39 校 (2.5%) であった。

問 1 貴校のこれまでの外国語活動の取り組みについて、あてはまるもの 1 つを選んでください



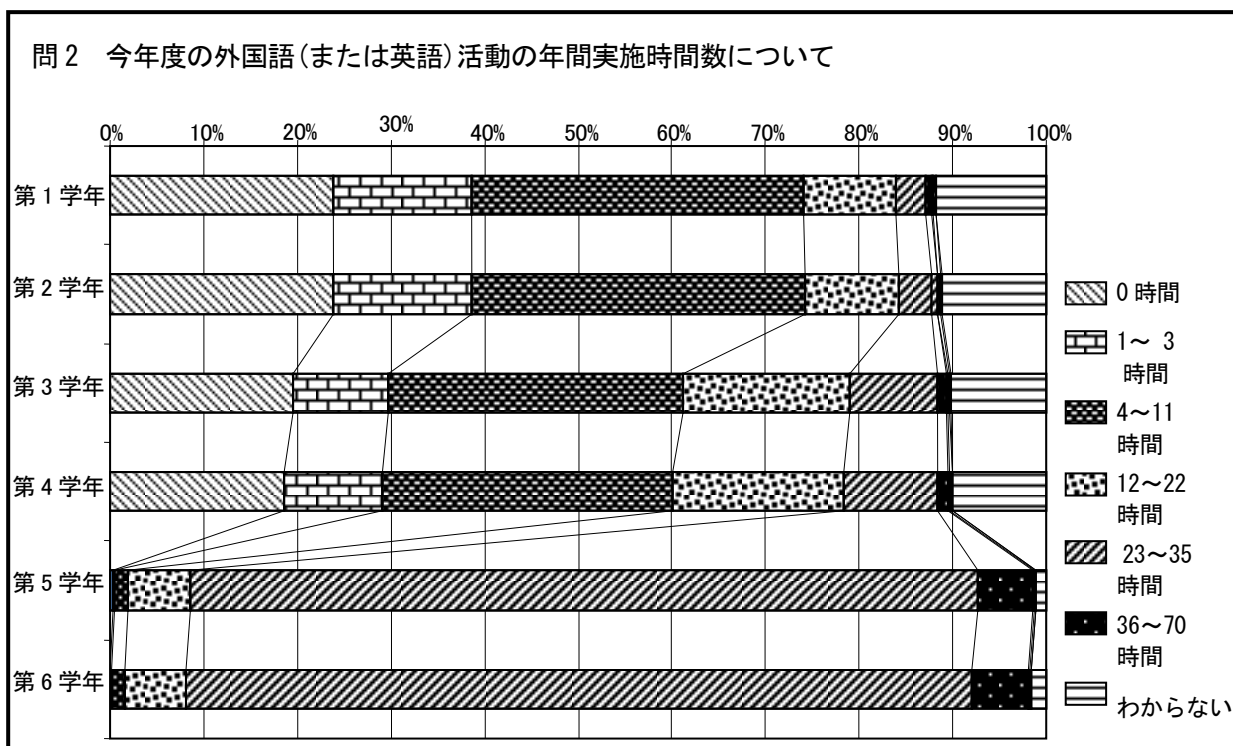
問 2 今年度の外国語(または英語)活動の年間実施数について、あてはまるもの 1 つを選んでください。

外国語活動の実施時間については、低学年(1・2年生)、中学年(3・4年生)、高学年(5・6年生)の3グループで段階があり、学年が上がるほど実施時間が増えていることがわかる。

低学年(1・2年生)の実施時間では「4～11時間」がもっとも多く、両学年とも35%台、次いで「0時間」が両学年とも23.9%であり、「1～3時間」が両学年とも15%弱で続く。「12～22時間」が、両学年とも9.9%、「23～35時間」が1年生3.3%、2年生3.5%、「36時間以上」は両学年とも1%に満たない。低学年ではまだ実施をしていないか、実施しても11時間以下の学校が7割強を占めていることがわかる。

中学年(3・4年生)も、実施時間の最大値は「4～11時間」にあり、3年生31.5%、4年生31.1%であるが、「0時間」が3年生19.5%、4年生18.6%と低学年に比べて少なくなっている。かわりに、「12～22時間」が3年生17.8%、4年生18.2%と低学年に比べ約倍の実施率を示している。さらに、「23～35時間」の実施をしている学校も3年生で9.3%、4年生で10.0%に及んでいる。

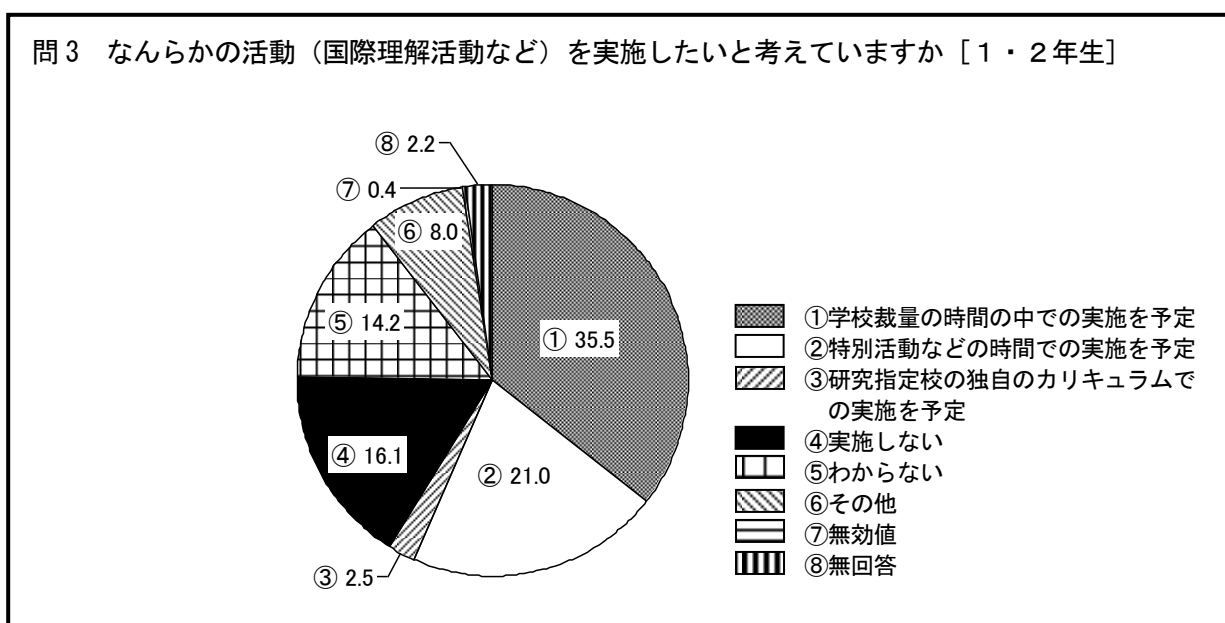
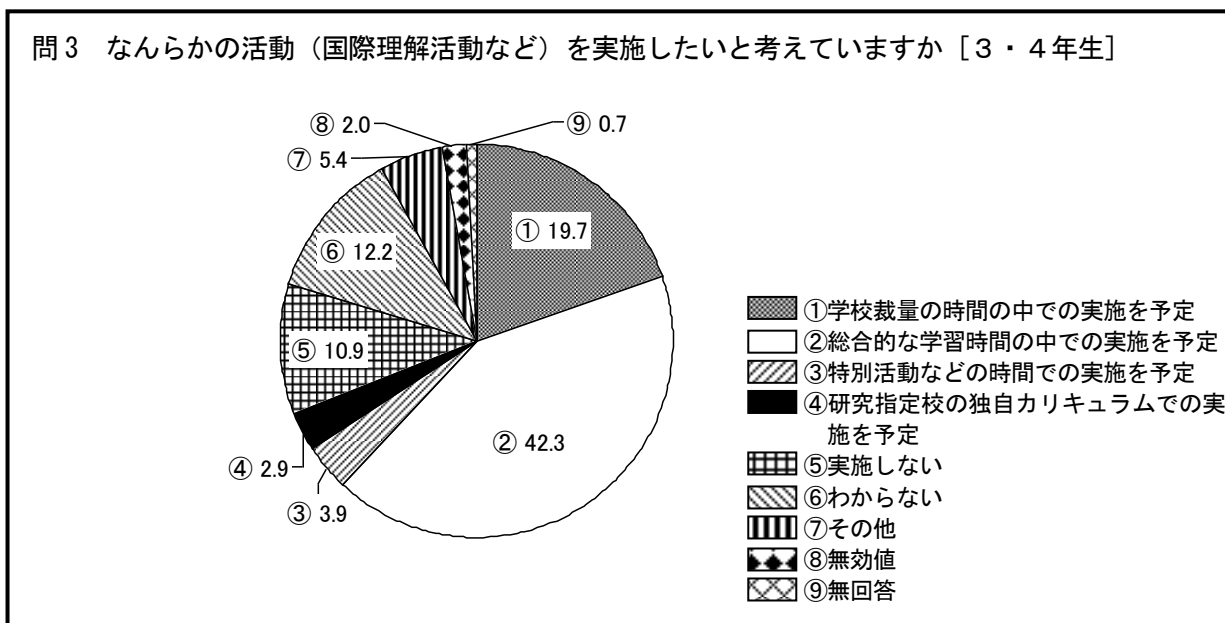
高学年(5・6年生)になると、「23～35時間」の外国語活動を実施している学校が8割をこえ、低学年、中学年とは大きな違いがみられる。実施時間11時間以下の学校は両学年とも2%以下である。6年生では「0時間」の学校はなく、すべての学校でなんらかの外国語活動を実施している。



問3 2011年度から5・6年生に対して外国語活動の必修化が定められていますが、貴校では4年生以下でも、なんらかの活動(国際理解活動など)を実施したいと考えていますか。あてはまるもの1つを選んでください。

3・4年生では、「総合的な学習の時間の中での実施を予定」が42.3%、「学校裁量の時間の中での実施を予定」が19.7%、「特別活動などの時間での実施を予定」が3.9%、「研究指定校等の独自のカリキュラムでの実施を予定」が2.9%であり、約7割の学校で実施を予定している。一方、「実施しない」(10.9%)、「わからない」(12.2%)とする回答もみられた。

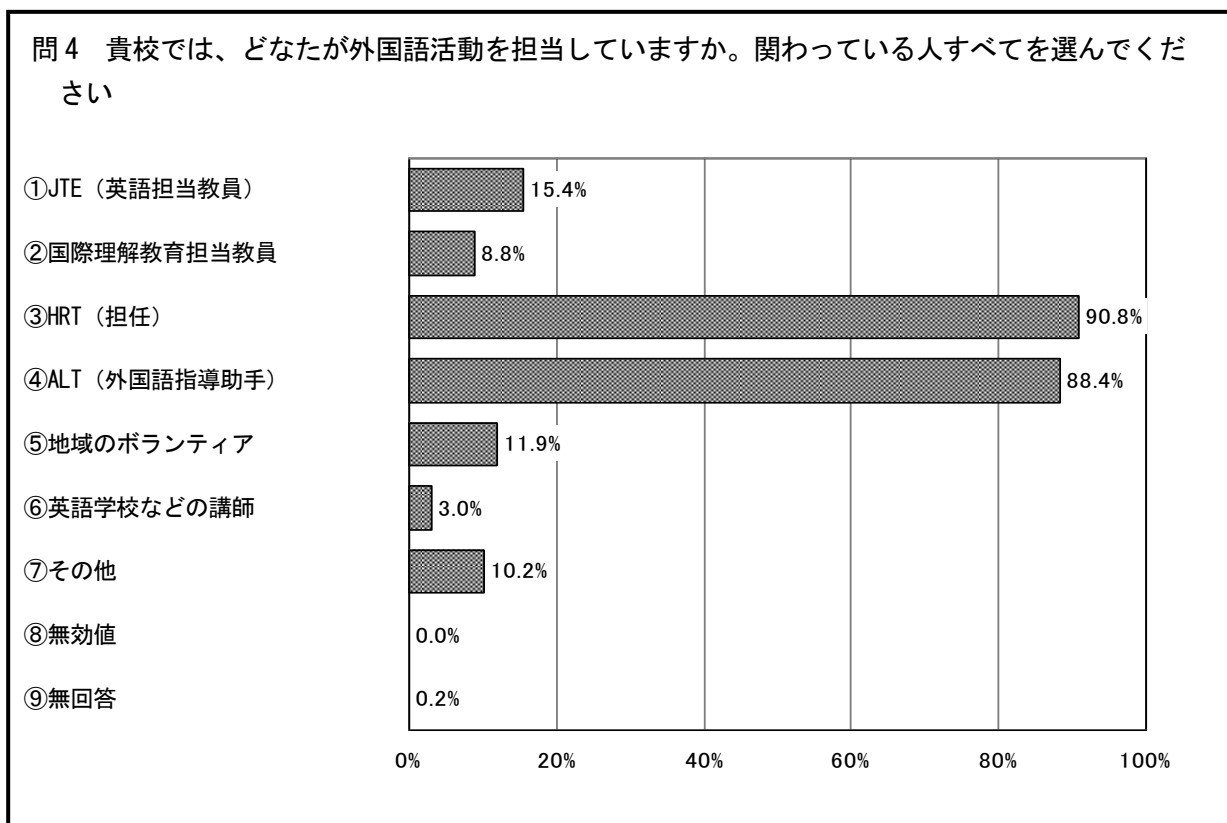
1・2年生では、「学校裁量の時間の中での実施を予定」が35.6%でもっとも多く、「特別活動などの時間での実施を予定」が22.0%、「研究指定校等の独自のカリキュラムでの実施を予定」が2.6%で、約6割の学校で実施を予定している。一方で「実施しない」(16.4%)、「わからない」(13.1%)という回答も多く、3割に及んでいる。



問4 貴校では、どなたが外国語活動を担当していますか。関わっている人すべてを選んでください。

HRT(担任)と、ALT(外国語指導助手)がほぼ9割の学校で外国語活動を担当している。

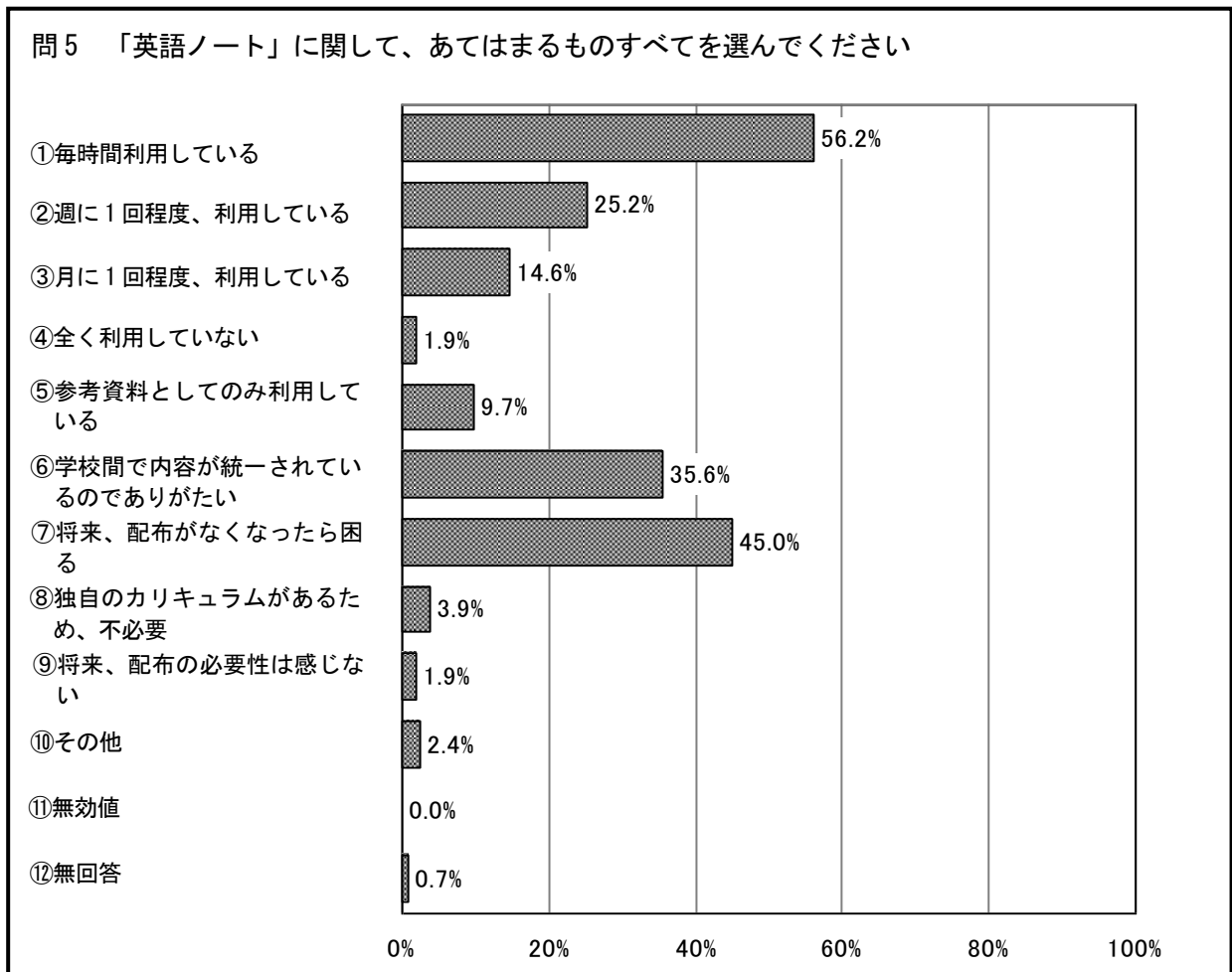
複数回答であり、HRTとALTの両方にチェックした学校が1247校と全体の81.5%と、大半を占め、両者が協働していることがわかる。JTE(英語担当教員)(15.4%)、地域のボランティア(11.9%)と続く。



問5 「英語ノート」に関して、あてはまるものすべてを選んでください。

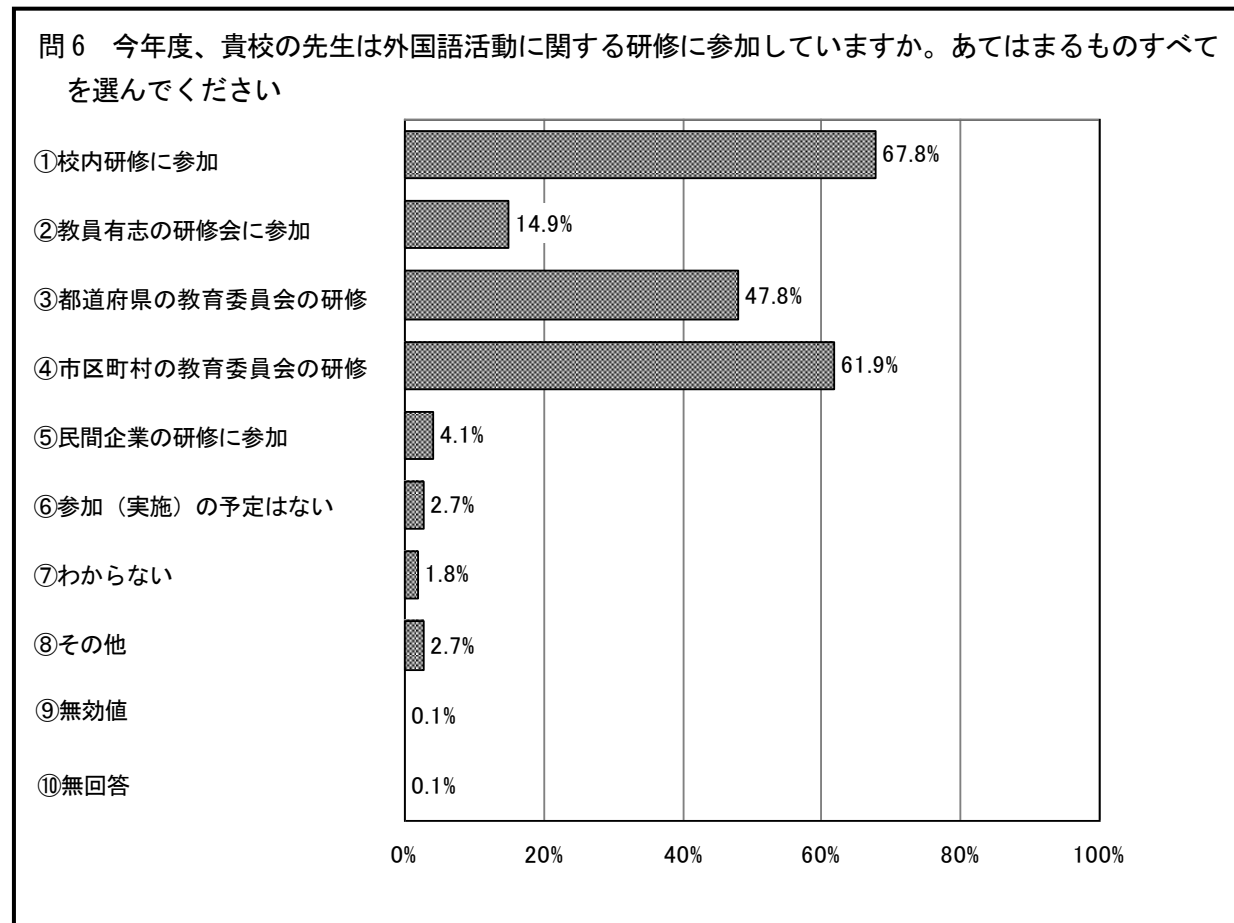
「英語ノート」の使用状況については、「毎時間使用している」(56.2%)、「週に1回程度使用している」(25.2%)、「月に1回程度使用している」(14.6%)と、ほとんどすべての学校で使用しており、「全く利用していない」は、わずか1.9%である。

「英語ノート」に関する意見では、「将来、配布がなくなったら困る」が45.0%でもっとも多く、次いで「学校間で内容が統一されるのでありがたい」が35.6%となっている。「独自のカリキュラムがあるため、不必要」とする学校はわずか3.9%にすぎず、現状では「英語ノート」に頼る学校が多いようだ。



問 6 今年度、貴校の先生は外国語活動に関する研修に参加していますか(または 2011 年 3 月までに参加する予定がありますか)。あてはまるものすべてを選んでください。

「校内研修に参加」(67.8%)をはじめ、「市区町村の教育委員会の研修に参加」(61.9%)、「都道府県の教育委員会の研修に参加」(47.8%)、「教員有志の研修会に参加」(14.9%)、「民間企業の研修に参加」(4.1%)となっており、「参加(実施)の予定はない」(2.7%)と「わからない」(1.8%)を除くほぼ 95%の教員がなんらかの研修に参加している。複数回答可で、1人の教員が平均で2つの研修に参加していることがわかる。

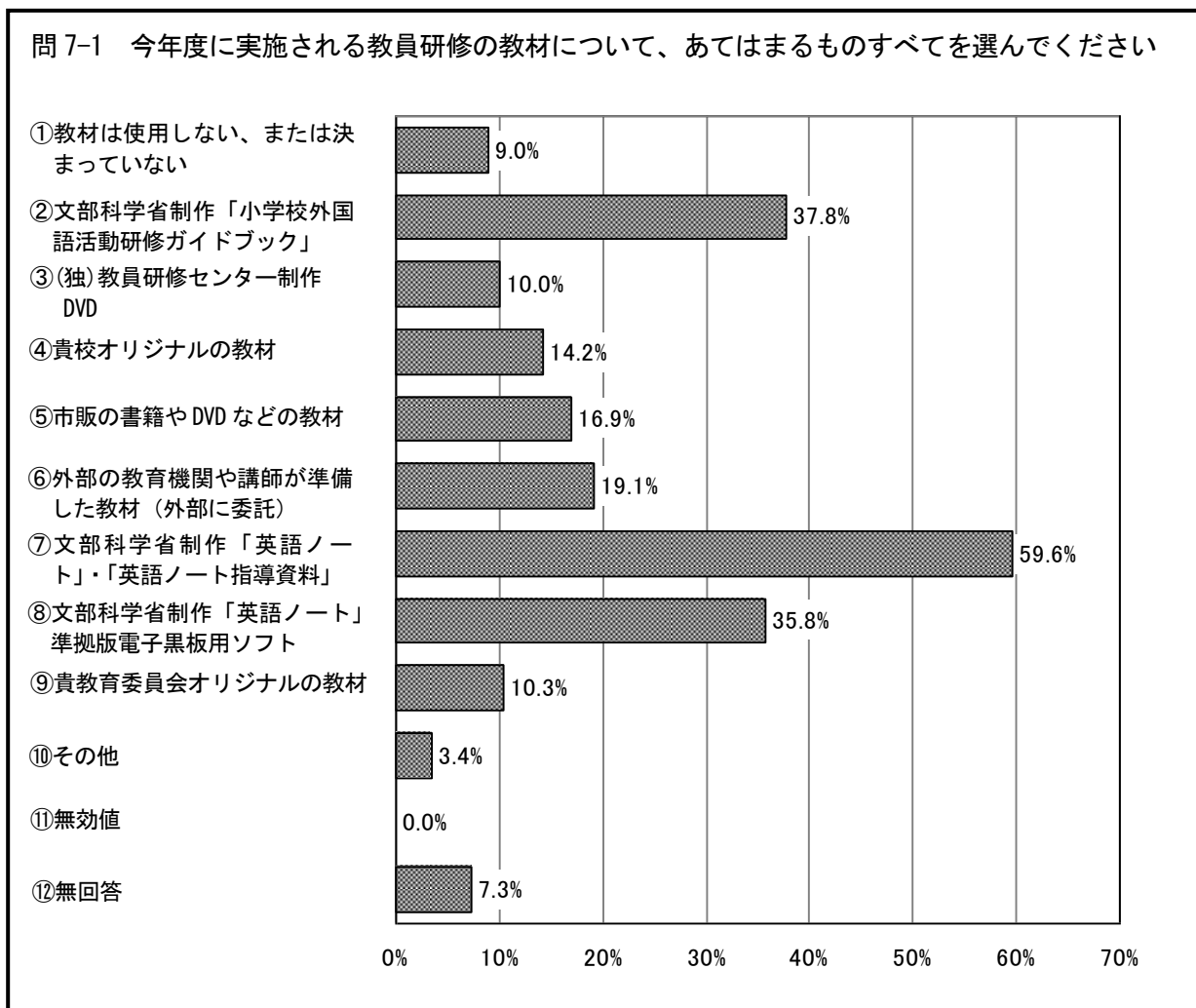


問 7 貴校において、今年度に教員研修の実績または予定がある場合についてうかがいます。

問 7-1 今年度を実施される教員研修の教材について、あてはまるものすべてを選んでください。

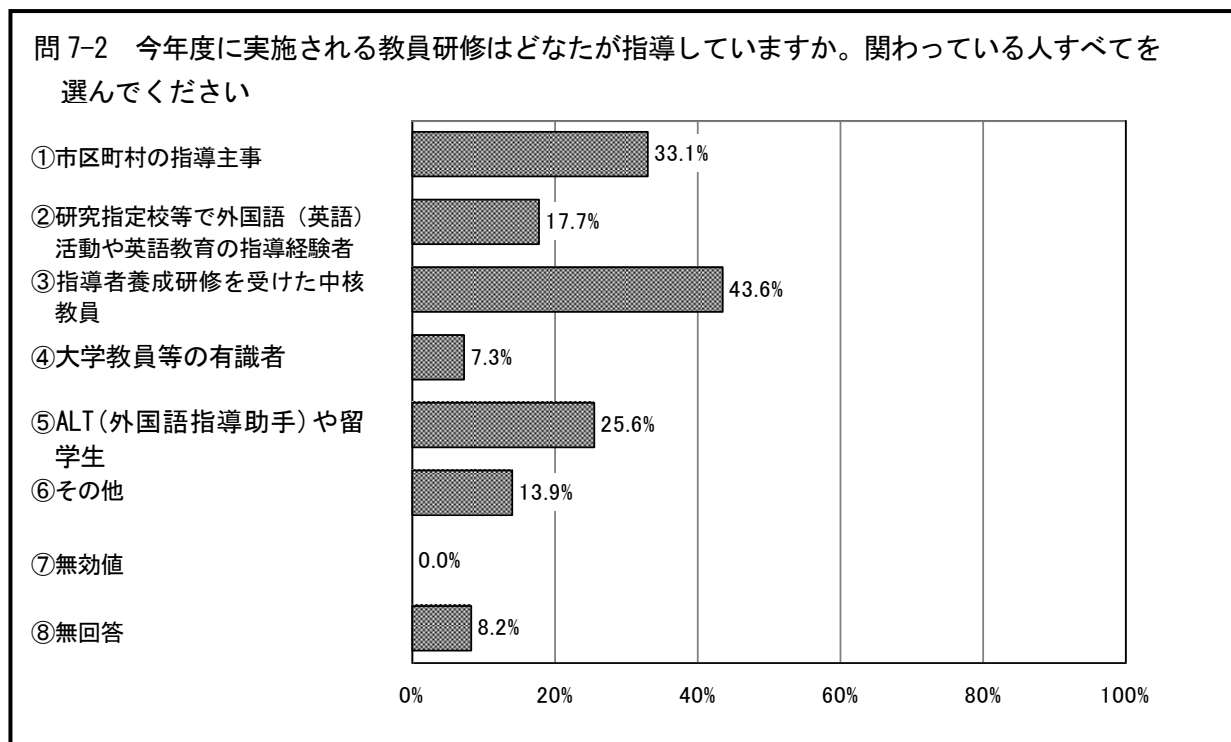
教員研修で使用の教材は、「文部科学省制作『英語ノート』・『英語ノート指導資料』」が 59.6%でもっとも多く、次いで「文部科学省制作『小学校外国語活動研修ガイドブック』」(37.8%)、「文部科学省制作『英語ノート』準拠版電子黒板用ソフトウェア(CD-ROM)」(35.8%)と、文部科学省制作の教材を使用している学校が多い。文部科学省制作のもの以外では、「外部の教育機関や講師が準備した教材」(19.1%)、「市販の書籍やDVDなどの教材」(16.9%)、「貴校オリジナルの教材」(14.2%)などが続く。

* 英語ノート、同 CD-ROM の併用状況など、アンケート原本参照。



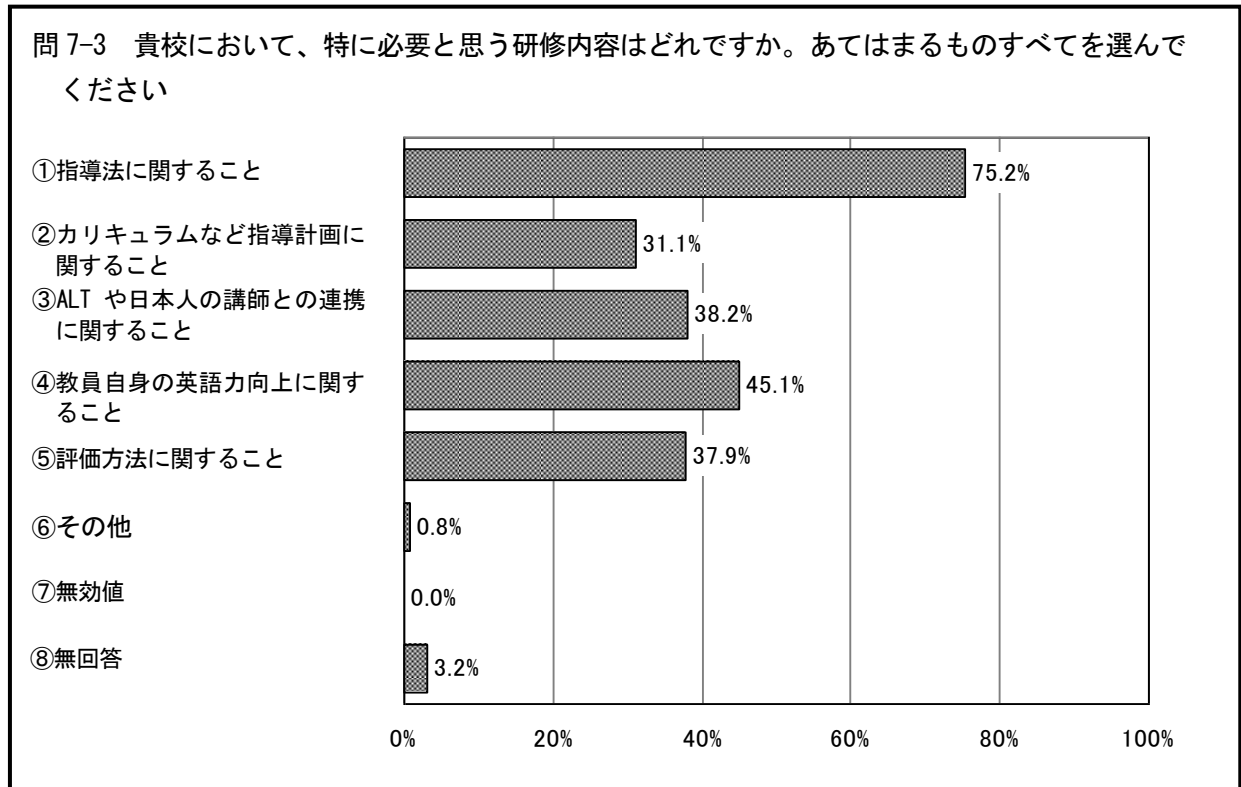
問 7-2 今年度に実施される教員研修はどなたが指導していますか。関わっている人すべてを選んでください。

教員研修の指導者は、「指導者養成研修を受けた中核教員」(43.6%)がもっとも多く、「市区町村の指導主事」(33.1%)、「ALT(外国語指導助手)や留学生」(25.6%)、「研究指定校などで外国語(英語)活動や英語教育の指導経験のある教員」(17.7%)と続く。



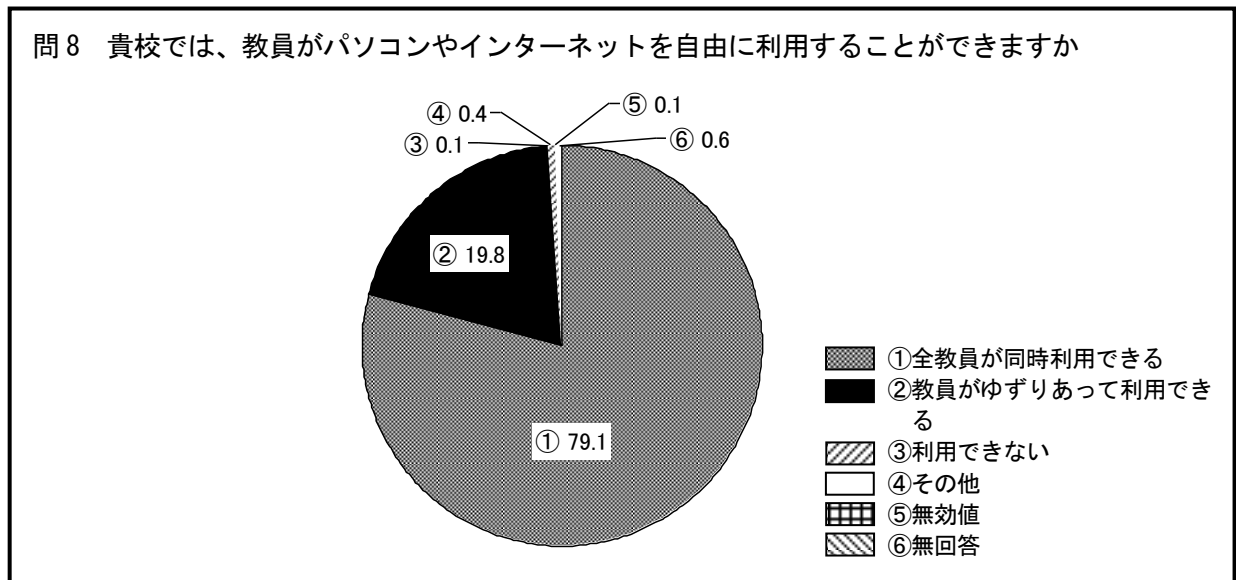
問 7-3 貴校において、特に必要と思う研修内容はどれですか。あてはまるものすべてを選んでください。

必要と思われる研修内容は、「指導法に関すること」が 75.2%と最も多く、次いで「教員自身の英語力向上に関すること」(45.1%)、ALT(外国語指導助手)や日本人の講師(またはボランティア)との連携に関すること(38.2%)、「評価方法に関すること」(37.9%)と続く。



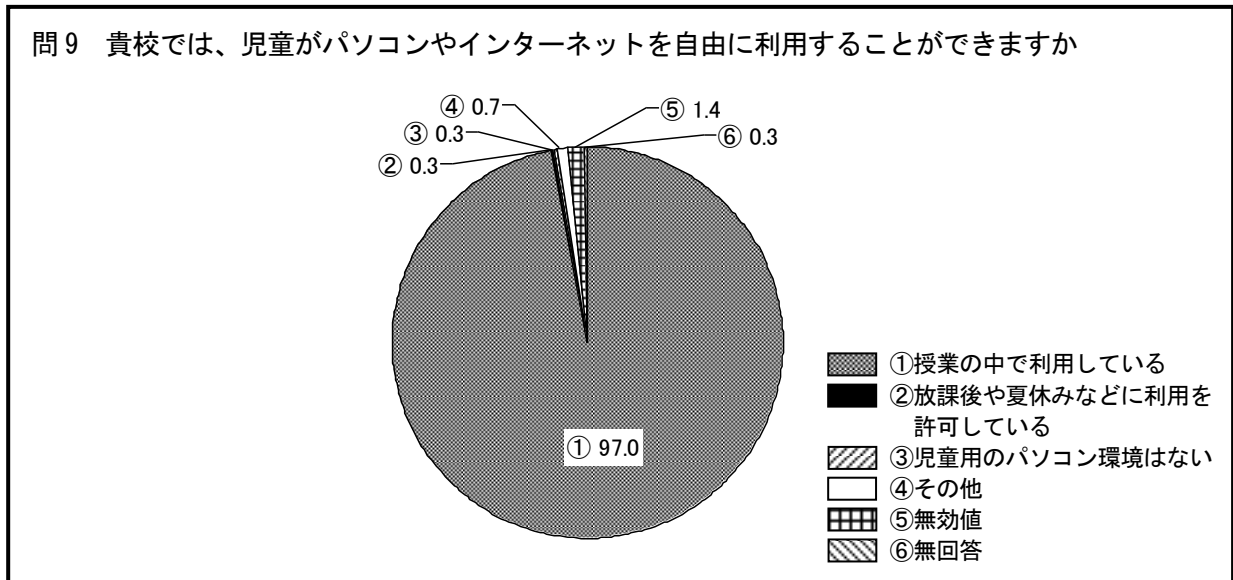
問 8 貴校では、教員がパソコンやインターネットを自由に利用することができますか。あてはまるもの 1 つを選んでください。

教員のパソコンの利用環境は、「全員が同時に利用できる」(79.1%)、「教員がゆずりあって利用できる」(19.8%)で、ほぼ 100%の教員が学校のパソコンを利用できる環境である。



問 9 貴校では、児童がパソコンやインターネットを自由に利用することができますか。あてはまるもの 1 つを選んでください。

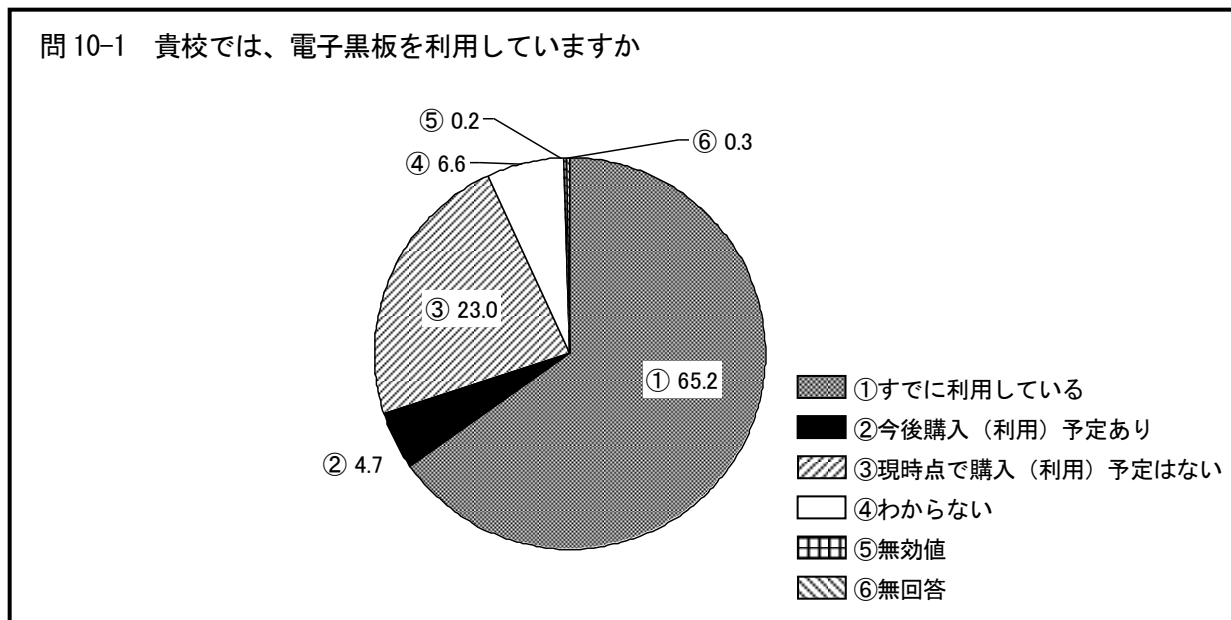
児童のパソコン利用環境は、「授業の中で利用している」が 97.0%で、ほぼ全員の児童がパソコンを利用できる環境にある。



問 10 電子黒板についてうかがいます。

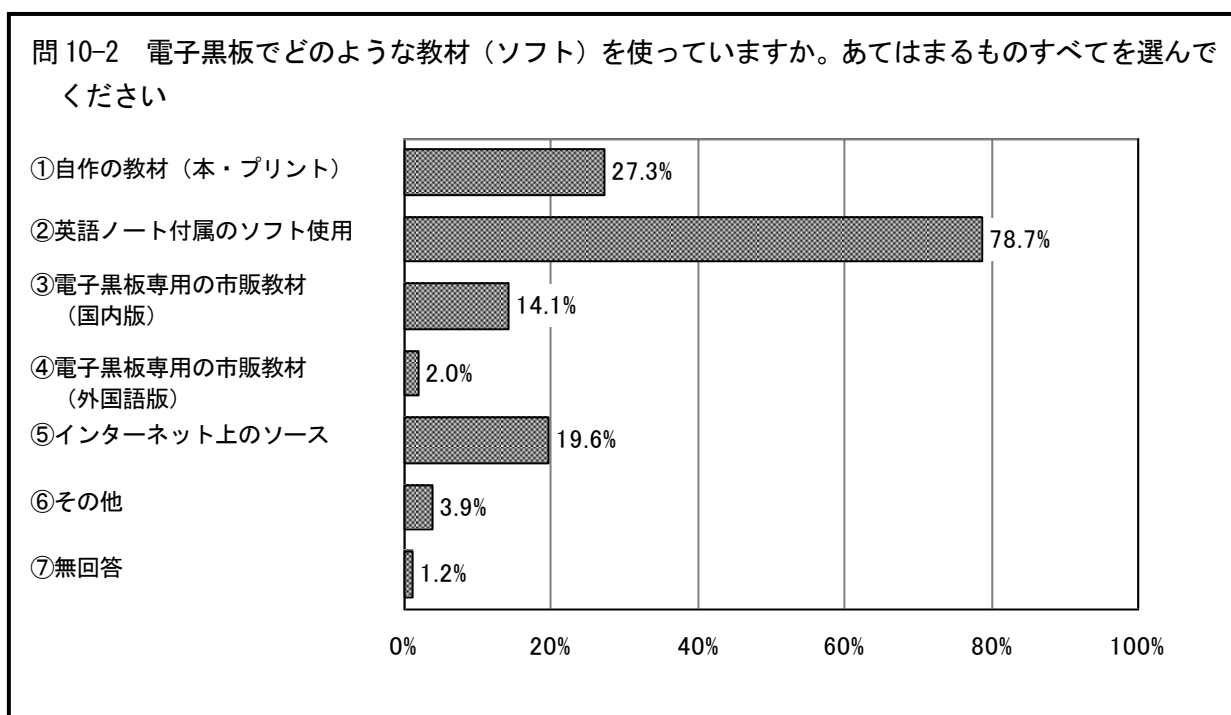
問 10-1 貴校では、電子黒板を利用していますか。あてはまるもの 1 つを選んでください。

電子黒板については「すでに利用している」が 65.2%で、「今後購入(利用)予定あり」(4.7%)と合わせると、7 割の学校が電子黒板の利用に積極的といえる。「現時点で購入(利用)予定はない」(23.0%)と「わからない」(6.6%)の消極的な回答は 3 割弱にとどまった。



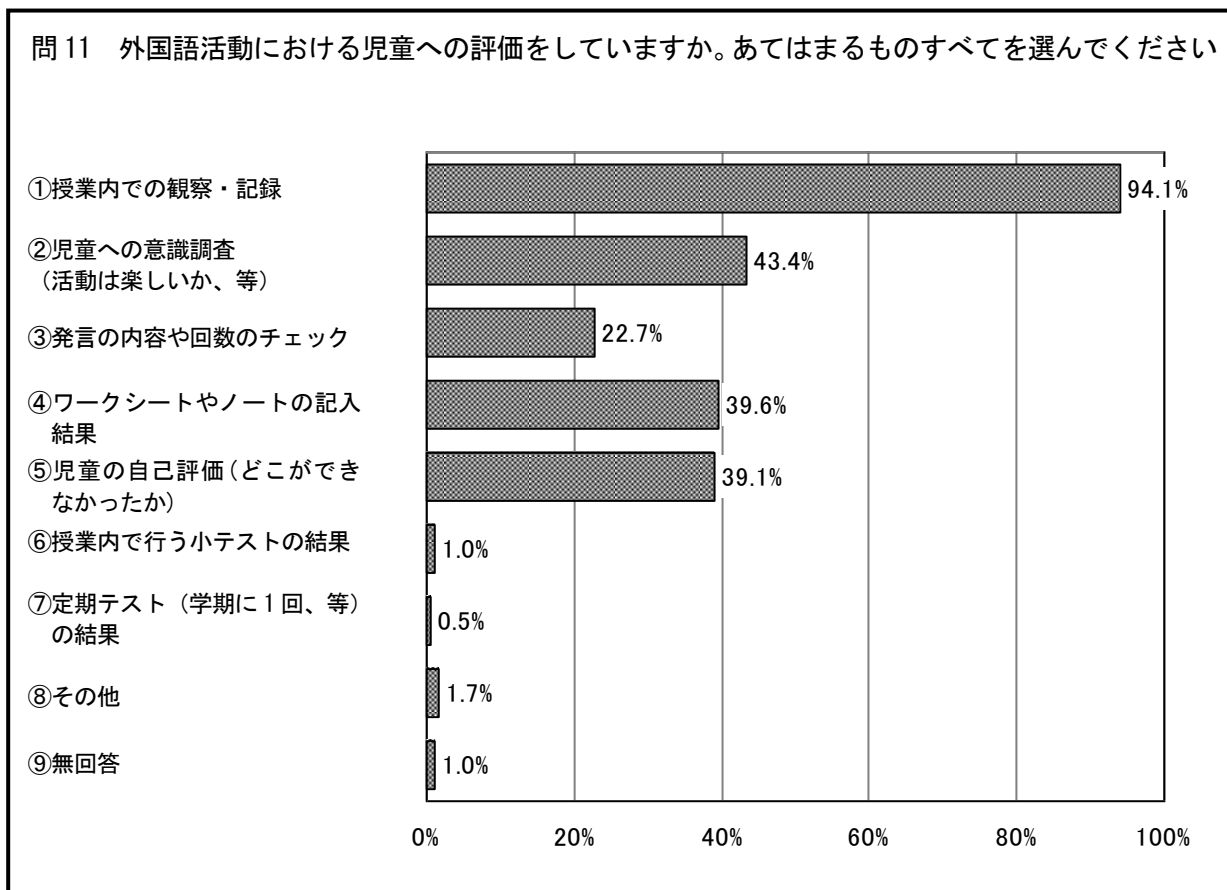
問 10-2 問 10-1 で1を選んだ場合、電子黒板でどのような教材(ソフト)を使っていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

電子黒板での使用教材については、約 3/4 以上の 78.7%が「英語ノート」付属のソフトを使用」と回答しており、「自作の教材(本・プリントなど)」(27.3%)、「インターネット上のソース」(19.6%)がこれに続く。



問 11 外国語活動における児童への評価をしていますか。あてはまるものすべてを選んでください。

児童への評価は「授業内での観察・記録」が 94.1%とほとんどの教員が回答として選択している。続いて「児童への意識調査(活動は楽しいか、等)」(43.4%)、「ワークシートやノートの記入結果」(39.6%)、「児童の自己評価(どこができなかった、等)」(39.1%)、「発言の内容や回数のチェック」(22.7%)と続く。テストなどで評価するものは「授業内での小テストの結果」(1.0%)、「定期テスト(学期に1回、等)の結果」(0.5%)と、ごく少数であった。複数回答可であり、1校平均、2～3項目を選択した。

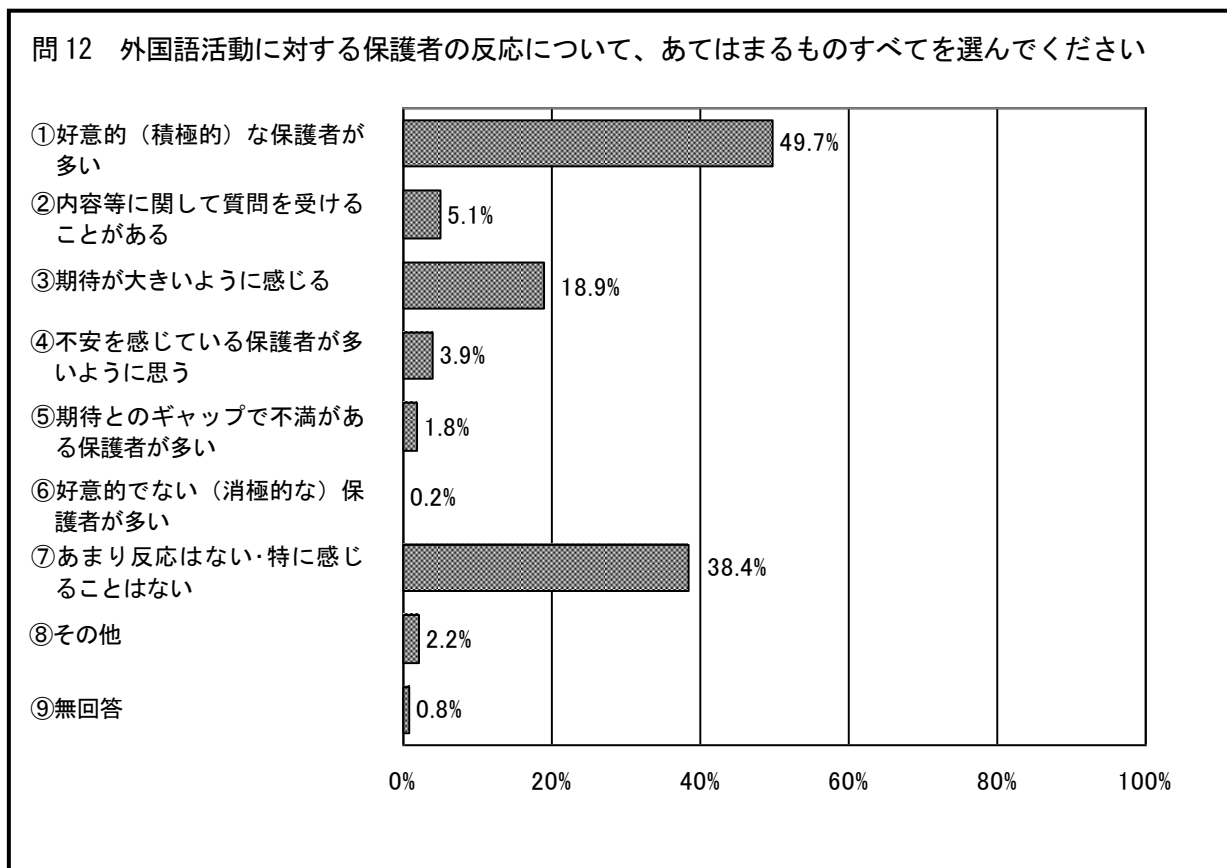


問 12 外国語活動に対する保護者の反応について、あてはまるものすべてを選んでください。

外国語活動に対する保護者の反応については、「好意的(積極的)な保護者が多い」とするものが 49.7%でもっとも多く、次いで「あまり反応はない・特に感じることはない」が 38.4%となっている。

保護者の反応は「ある」と「ない」にほぼ二分され、反応がある場合は好意的なものであることがわかる。

「内容等に関して質問を受けることがある」(5.1%)、「期待とのギャップで不満がある保護者が多い」(1.8%)など、踏み込んだうえでの反応がまだ少ないのと、「あまり反応はない・特に感じることはない」(38.4%)の結果から、この設問の回答結果は、本格的導入が始まる以前の状況であるからという観測もできそうだ。



**問13 年間35時間の外国語活動を実施するにあたり、貴校では以下の面で環境は整っていると思いますか。
それぞれについてあてはまるもの(1から5の中で)1つを選んでください。**

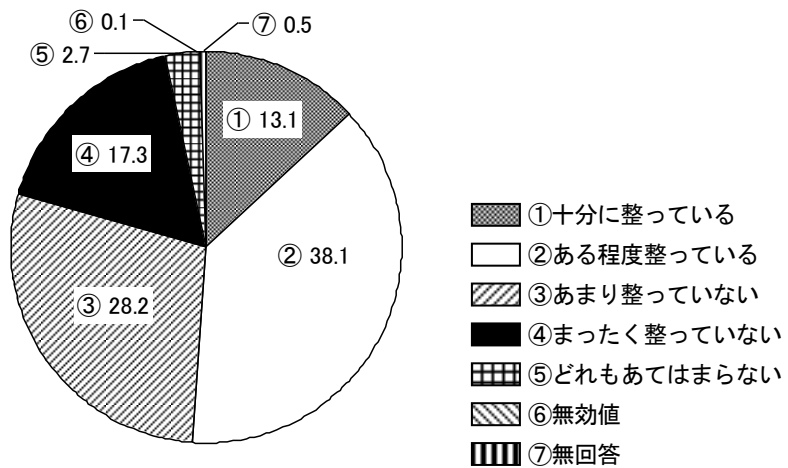
外国語活動実施に際しての環境の整備状況については以下のようにまとめられる。

- ①「十分に整っている」「ある程度整っている」が70%をこえるもの
「ALTの小学校訪問頻度(人件費を含む)」(75.1%)
- ②「十分に整っている」「ある程度整っている」が60%をこえるもの
「児童が外国語活動で使用する教材」(64.0%)
「教師が外国語活動で使用する教具」(63.2%)
「外国語活動実施に対する教員の積極性」(61.0%)
- ③「十分に整っている」「ある程度整っている」が50%をこえるもの
「年間指導計画・指導案」(59.7%)
「ALTなどの指導者に関する費用」(55.2%)
「外国語活動担当教員の配置」(51.2%)
- ④「十分に整っている」「ある程度整っている」と「まったく整っていない」「あまり整っていない」が、ほぼ拮抗しているもの
「外国語活動を行うための教室」…「整っている」(50.6%)>「整っていない」(47.1%)
「学校外での研修会・勉強会などの情報」…「整っている」(50.4%)>「整っていない」(47.5%)
「校内研修を企画・運営できる教員」…「整っている」(49.9%)>「整っていない」(48.0%)
「年間指導計画を作成できる教員」…「整っている」(48.1%)<「整っていない」(49.4%)
- ⑤「まったく整っていない」「あまり整っていない」が50%をこえるもの
「英語の文法・表現・発音等について相談できる人」(66.9%)
「進学先中学校との情報交換の体制」(65.0%)
「同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制」(64.4%)
「5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制」(63.5%)
「外国語活動の指導法について相談できる人」(63.4%)
「教師が使用する教具を購入する費用」(57.4%)
「学校外での研修会・勉強会参加の仕組やサポート体制」(57.3%)
「過去に外国語活動を指導した経験のある教員」(55.8%)
「教師が研修に参加する費用」(54.0%)
「校内研究会・研修会の実施体制」(51.4%)

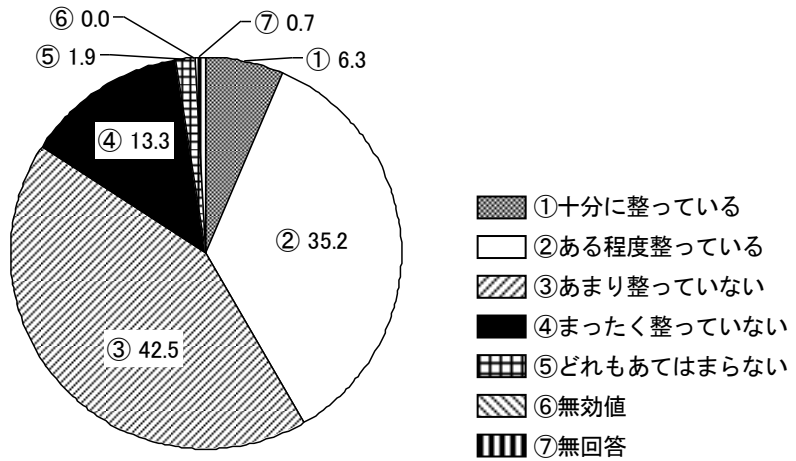
以上を概観すると、外国語活動を実施する環境は、ALTや、教材など基本的な部分ではほぼ整っている状態といえそうである。

ただし、指導者や、相談できる人など、スキルをもった人材の不足、および教員間や他校との情報交換体制の不備がまだみられるといえそうだ。

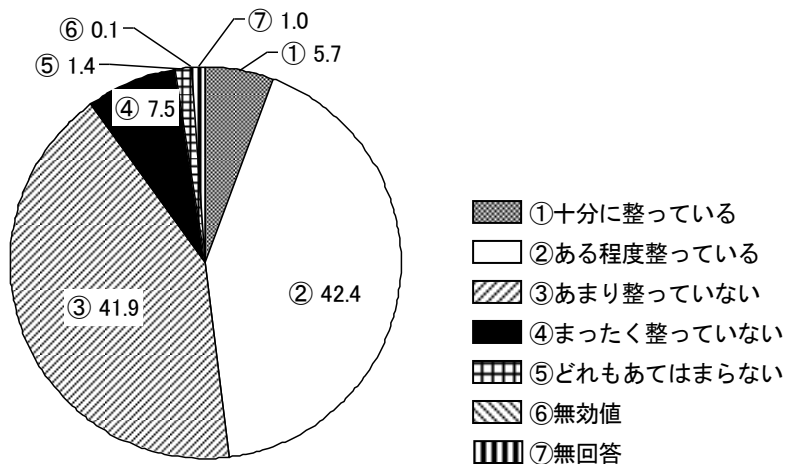
問 13-1 外国語活動担当教員の配置



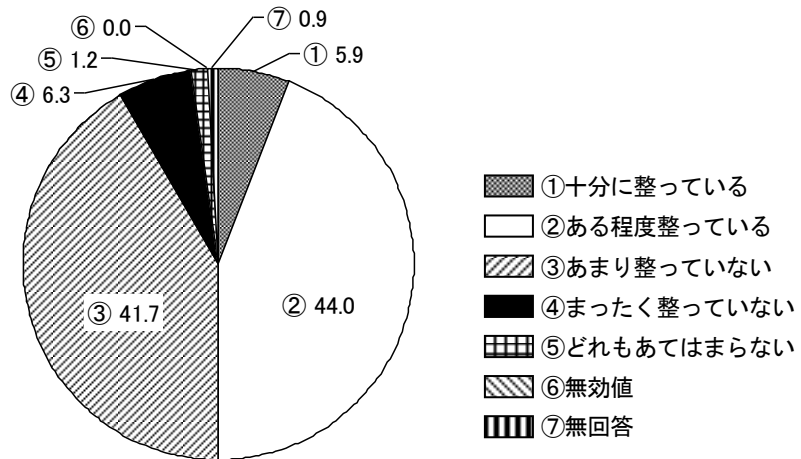
問 13-2 過去に外国語活動を指導した経験のある教員



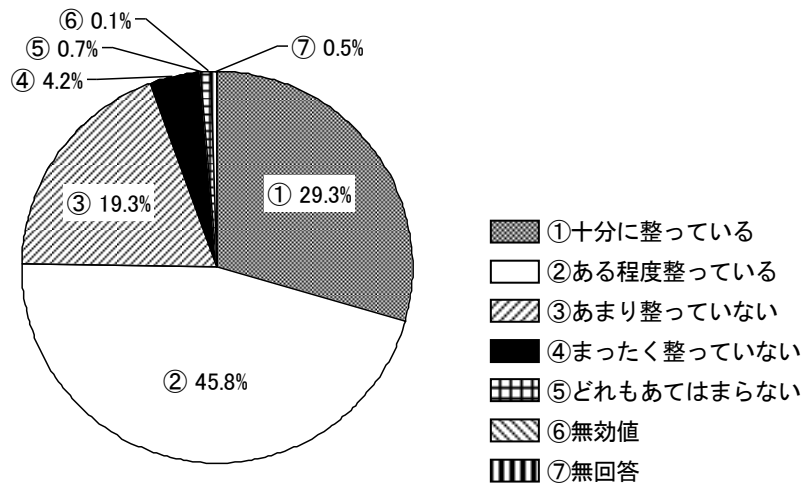
問 13-3 年間指導計画を作成できる教員



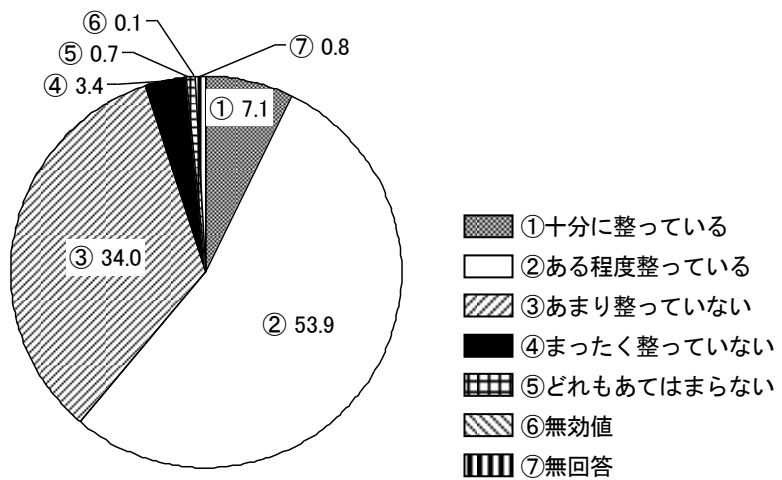
問 13-4 校内研修を企画・運営できる教員



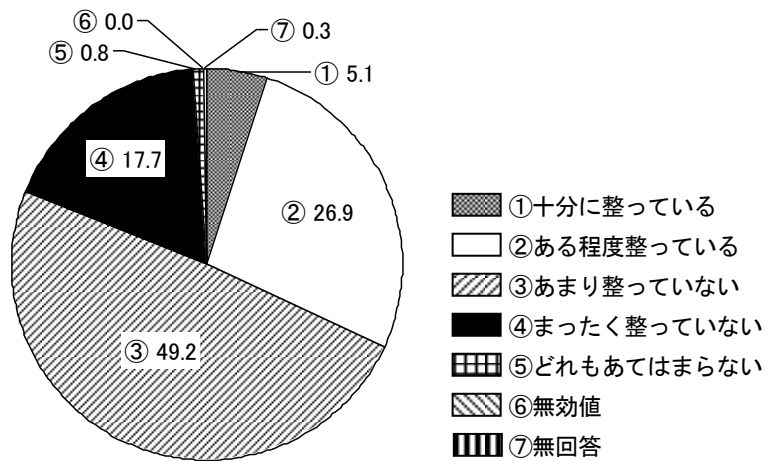
問 13-5 ALT の小学校訪問頻度 (人件費を含む)



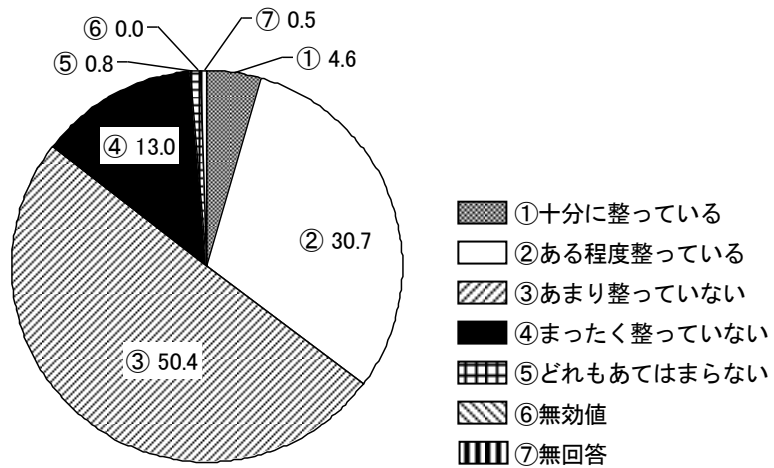
問 13-6 外国語活動実施に対する教員の積極性



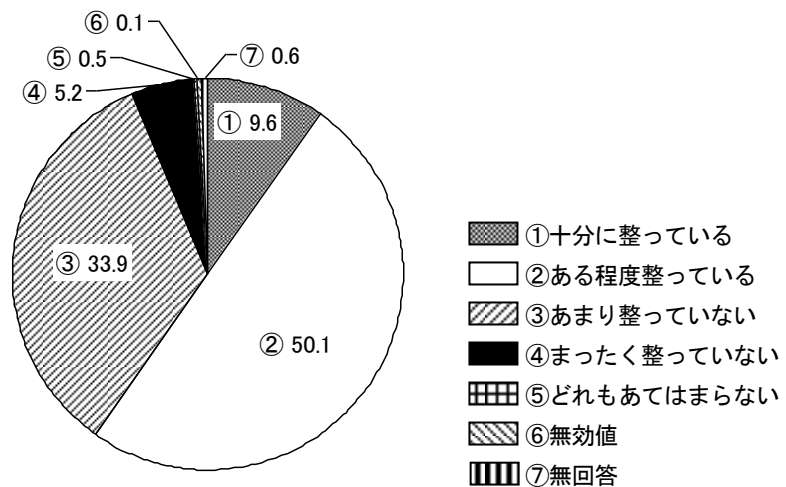
問 13-7 英語の文法・表現・発音等について相談できる人



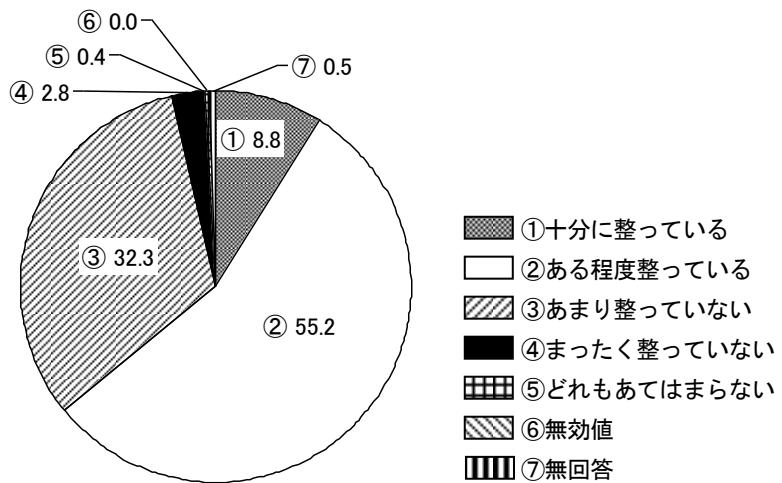
問 13-8 外国語活動の指導法について相談できる人



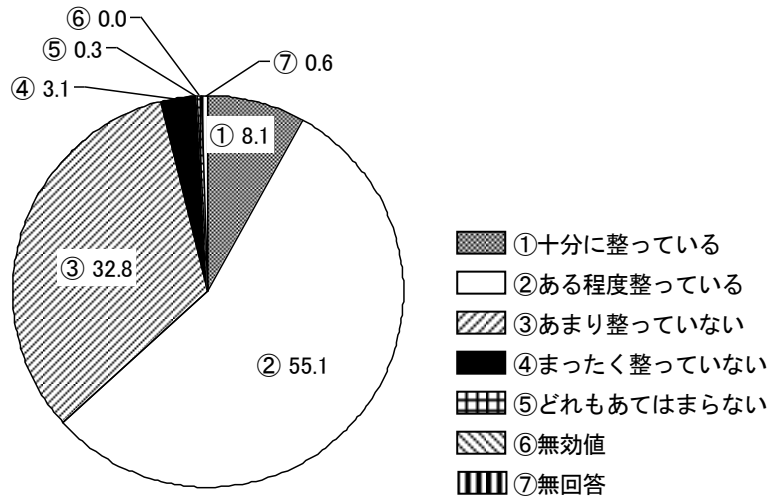
問 13-9 年間指導計画・指導案



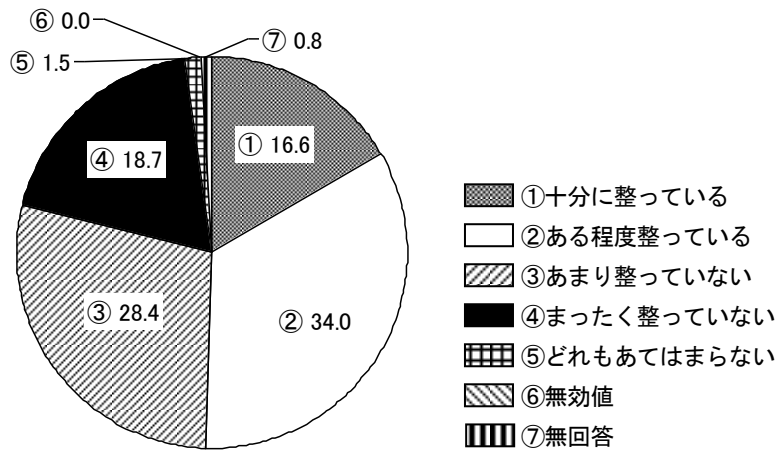
問 13-10 児童が外国語活動で使用する教材



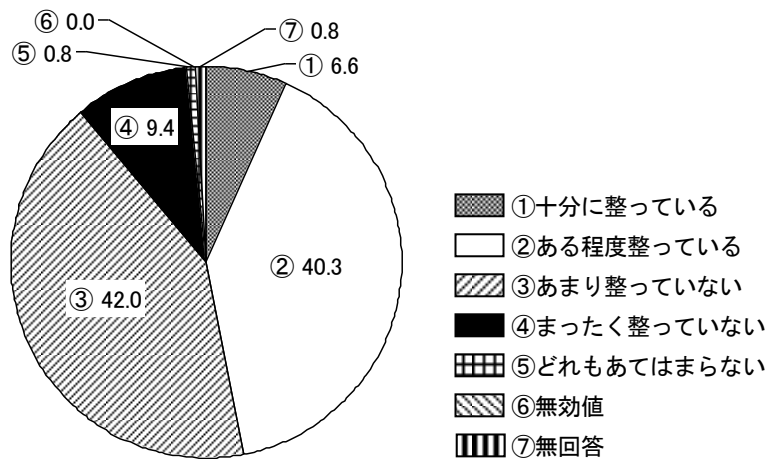
問 13-11 教師が外国語活動で使用する教具



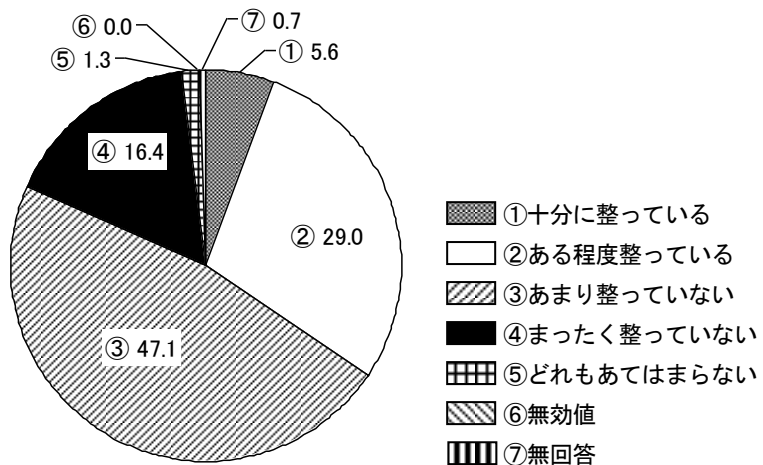
問 13-12 外国語活動を行うための教室



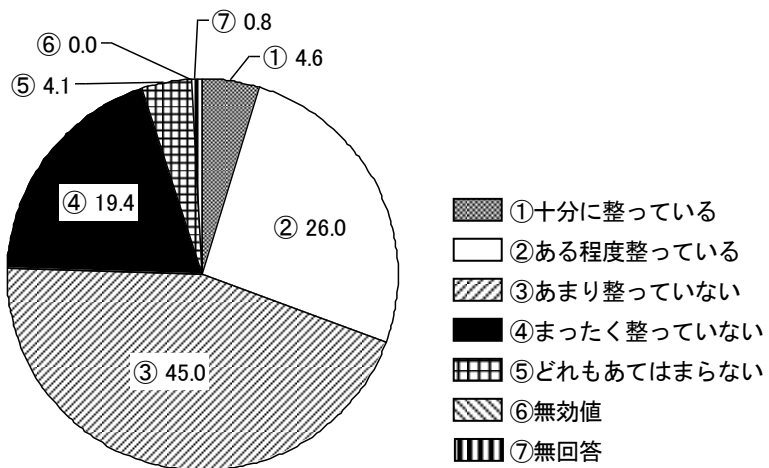
問 13-13 校内研究会・研修会の実施体制



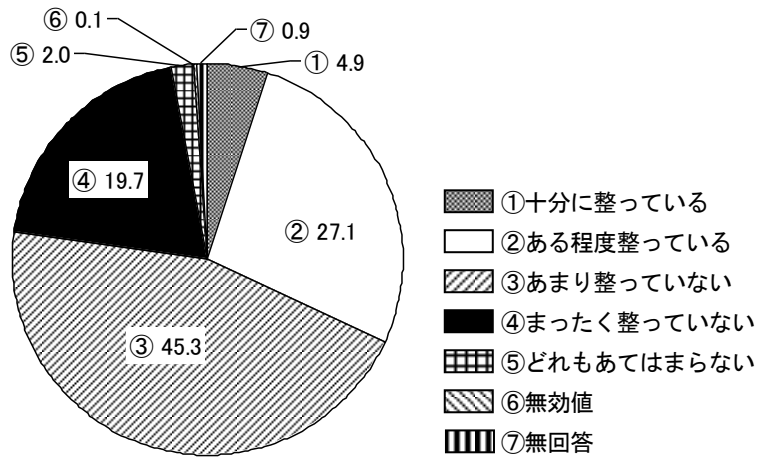
問 13-14 5・6年生と1～4年生の担当教員の情報交換体制



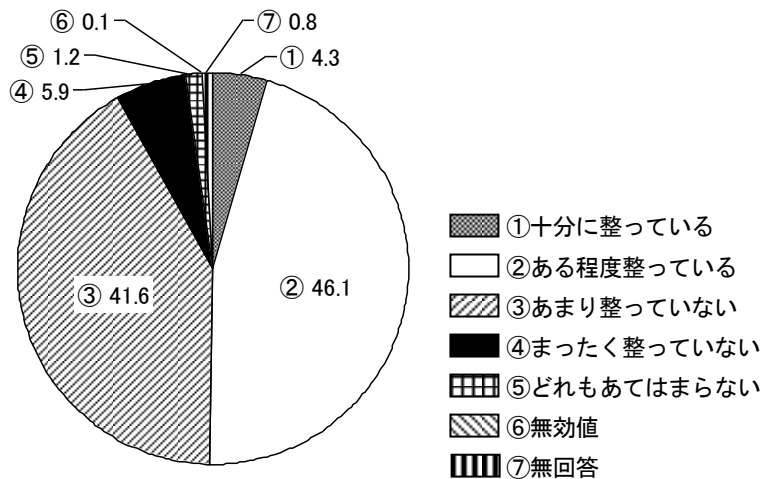
問 13-15 同一中学に進学する近隣小学校との情報交換の体制



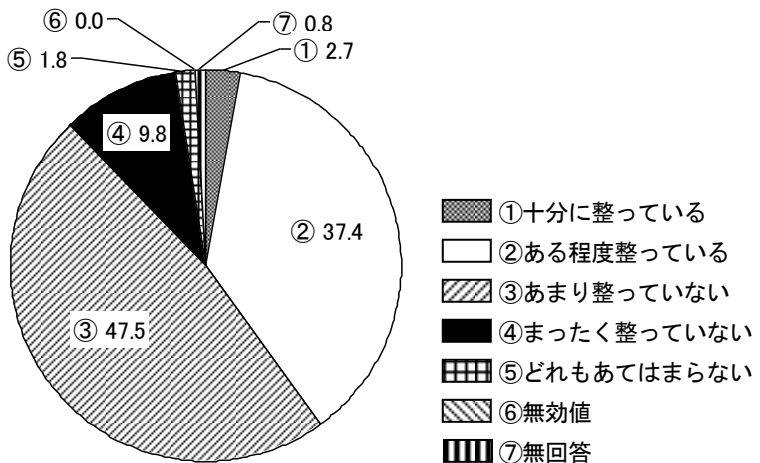
問 13-16 進学先中学校との情報交換の体制



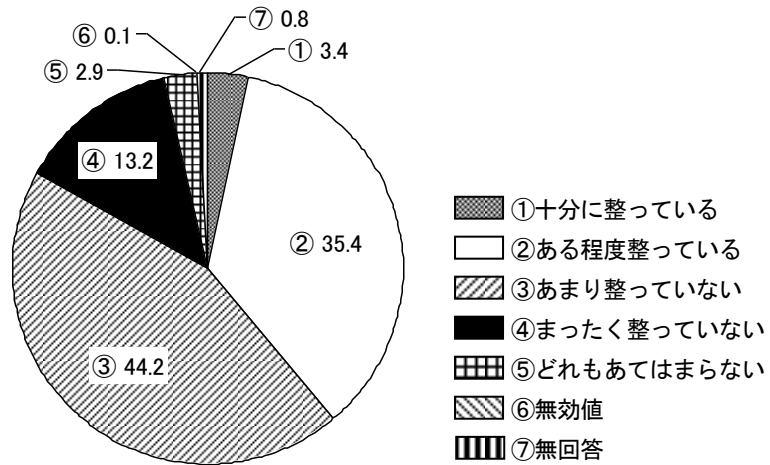
問 13-17 学校外での研修会・勉強会などの情報



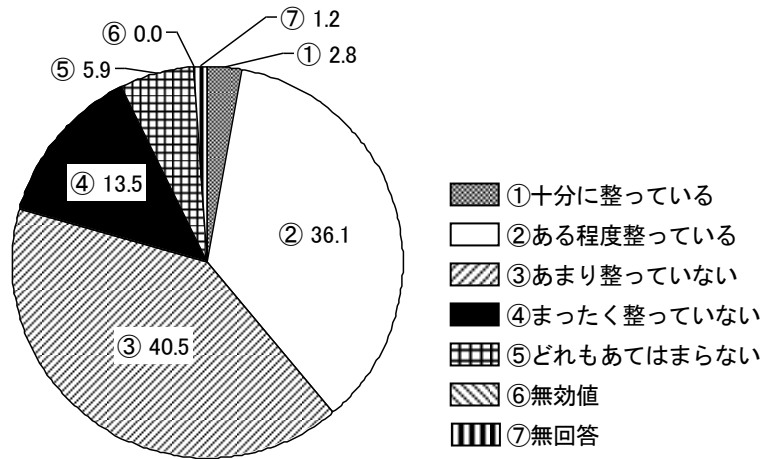
問 13-18 学校外での研修会・勉強会参加の仕組やサポート体制



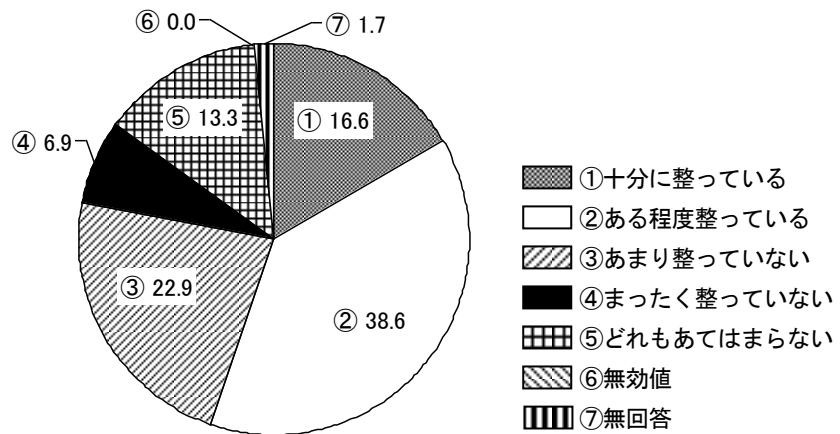
問 13-19 教師が使用する教具を購入する費用



問 13-20 教師が研修に参加する費用



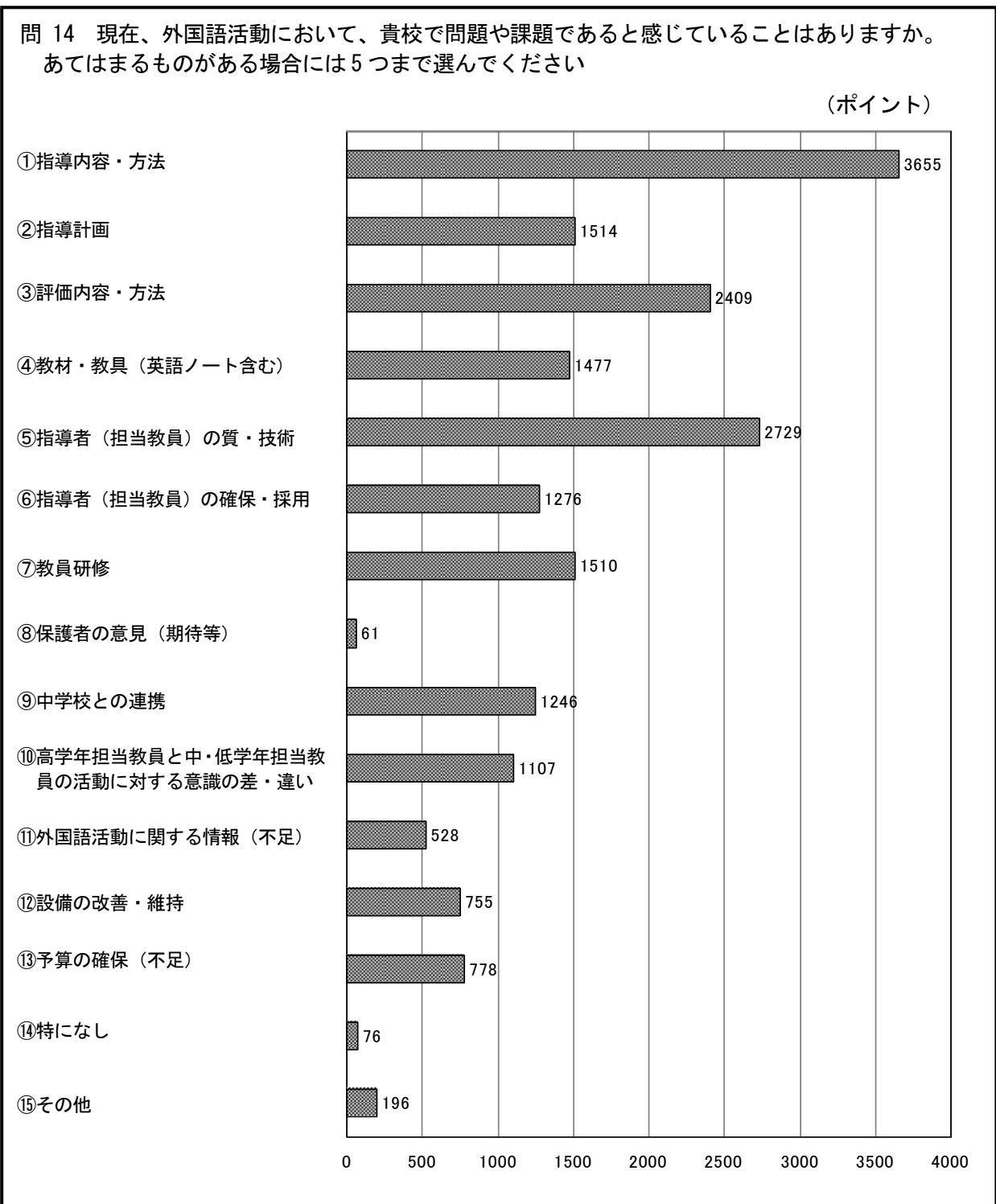
問 13-21 ALT などの指導者に関する費用



問 14 現在、外国語活動において、貴校で問題や課題であると感じていることはありますか。下記の中であてはまるものがある場合には 5 つまで選び、優先度が高い順から 1,2,3…というようにくゝに番号を書いてください。

外国語活動における問題や課題については、「指導内容・方法」がもっとも多く 39.4%、次いで「評価内容・方法」(33.2%)、「指導者(担当教員)の質・技術」(32.4%)、「教員研修」(23.2%)、「中学校との連携」(22.6%)、「教材・教具」(22.5%)が続く。

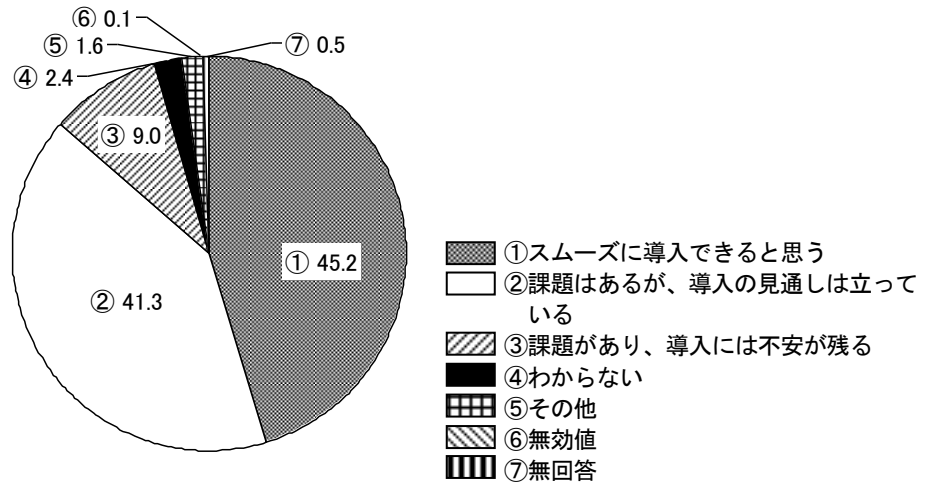
各選択肢に、優先度を加えてポイント(優先度の高い順に5……1点として計算)でみると、「指導内容・方法」が 3655 ポイントで 1 位、次いで「指導者(担当教員)の質・技術」が 2729 ポイントで 2 位、「評価内容・方法」が 2409 ポイントで 3 位、「指導計画」(1514 ポイント)、「教員研修」(1510 ポイント)、「教材・教具」(1477 ポイント)、「指導者(担当教員)の確保・採用」(1276 ポイント)が続く。優先度を加味すると、外国語活動における問題や課題については順位が変わってくる。



問 15 2011 年度からの外国語活動必修化に向けて、貴校では 5・6 年生での年間 35 時間の外国語活動導入がスムーズに進むと思いますか。想定されるもの 1 つを選んでください。

「スムーズに導入できると思う」が 45.2%と最も多く、「課題はあるが、導入の見通しは立っている」が 41.3%で続く。ほとんどの学校で導入にむけ、準備ができているといえそうだ。「課題があり、導入には不安が残る」とするものは、わずか 9.0%であった。

問 15 2011 年度からの外国語活動必修化に向けて、貴校では 5・6 年生での年間 35 時間の外国語活動導入がスムーズに進むと思いますか



問 16. 外国語活動の導入によって、小学校全体および貴校にとってどのような影響がある(あった)と思いますか。(例:児童にどのような力がつくと思うか)。その他、ご意見があればご自由にお書きください。

☆ 外国語活動の導入について肯定的な意見 <735 件>

1. 外国語・異文化への理解の深化(必ずしもコミュニケーション能力を問わない。慣れ親しみ) 324 件
2. コミュニケーション能力の向上(必ずしも外国語・異文化への理解を問わない。表現力向上、積極性を含む)..... 306 件
3. 小中学校間の接続(中学校英語を学ぶ際に小学校での外国語活動が役立つ) 59 件
4. 教員意識の向上 17 件
5. その他の肯定的な意見..... 29 件

☆ 外国語活動の導入について不安や課題があるとする意見 <371 件>

6. 教員の負担増及び力量や経験不足(教員の資質) 105 件
7. ALT との対応が不安、人材不足..... 20 件
8. 授業内容、カリキュラム(教材の選定・確保・活用を含む) 46 件
9. 指導体制、指導時間の確保(授業体制・授業時間の確保含む)..... 19 件
10. 評価 20 件
11. 教員研修(研究会などの参加含む) 12 件
12. 小中学校間の接続..... 25 件
13. その他の不安・不満・課題 76 件

☆ その他の意見 <48 件>

14. その他の意見(肯定的でも否定的でもない意見

～ 本件に関するお問い合わせ先 ～

財団法人日本英語検定協会 英語教育研究センター

担当：小笠原 t-ogasahara@eiken.or.jp

/ 染谷 y-someya@eiken.or.jp

TEL:03-3266-6706 FAX:03-3266-6704